現状からみえる問題点と課題　　（計画書より抜粋）

〇介護サービス、人材、社会資源が不足している

〇医療・介護・行政等、関係機関の連携のシステムづくりが不十分

⇒限られた人材や資源を活用し、医療・介護をはじめとする多職種の連携強化を図り、長期にわたって実現可能な在宅療養支援体制を構築する必要がある。

⇒切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築を進めるうえで、ＩＣＴをはじめ情報共有の手段について検討する必要がある。

〇最期を迎えたい場所と現実の差がある

〇人生の最期をどう迎えるか、考える機会がない

⇒ＡＣＰ（アドバンス・ケア・プランニング）「人生会議」を通して、住民が在宅療養や介護、自分や家族の人生の過ごし方等について考える機会を持つことができるように働きかけることが必要である。

〇在宅医療や介護についての情報が、市民や現場の医療介護従事者に浸透していない

⇒市民や関係機関に対し、相談機関や社会資源の普及啓発を行い、資源として活用できるようにする必要がある

目指すべき姿

自分が過ごしたい場所で、望む暮らしが最期までできる

関係機関や多職種が連携して、在宅医療・介護サービスを提供し、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができることを目指します。